

雑餉隈遺跡9

—雑餉隈遺跡第21次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1333集

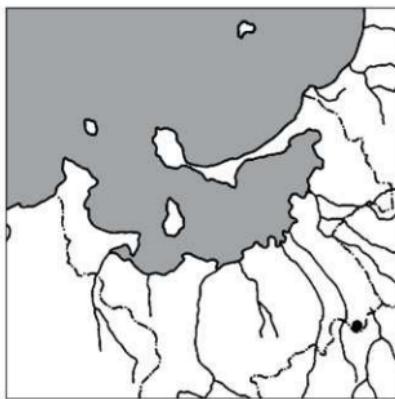
2018

福岡市教育委員会

雜餉隈遺跡 9

—雜餉隈遺跡第21次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1333集



遺跡略号 ZSK-21

調査番号 1542

2018

福岡市教育委員会

序

北部九州は玄界灘を介して大陸・朝鮮半島と一衣帶水の関係にあり、古代より双方の交流が絶え間なくおこなわれてきました。なかでも福岡市には、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く存在します。近年の著しい都市化により失われるこれらの文化財を後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は個人住宅建設に伴う雑餉隈遺跡第21次発掘調査について報告するものです。この調査では古代の遺構・遺物が多数出土しました。

これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後本書が文化財保護についての理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、事業者様をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

平成30年3月26日

福岡市教育委員会

教育長 星子 明夫

例　　言

- 本書は、福岡市教育委員会が専用住宅建設に伴い、福岡市博多区昭南町2丁目20において発掘調査を実施した雑餉隈遺跡第21次調査の報告書である。
- 発掘調査および整理・報告書作成は、民間受託事業として実施した。
- 報告する調査の基本情報は下表のとおりである。
- 本書に掲載した遺構実測図の作成は清金良太が行った。
- 本書に掲載した遺物実測図の作成は、清金が行った。
- 本書に掲載した遺構および遺物写真的撮影は、清金が行った。
- 本書に掲載した挿図の製図は、清金が行った。
- 本書に掲載した国土座標値は、世界測地系（第II座標系）によるものである。
- 本書で用いた方位は座標北で、真北より $0^{\circ}18'$ 西偏する。
- 遺構の呼称は、堅穴住居をSC、土坑をSK、ピットをSPと略号化した。
- 遺物番号は通し番号とし、挿図と図版の遺物番号は一致する。
- 本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
- 本書の執筆および編集は、清金が行った。

遺跡名	雑餉隈遺跡	調査次数	第21次	遺跡略号	ZSK-21
調査番号	1542	分布地図図幅名	013	遺跡登録番号	0054
申請面積	81.53m ²	調査対象面積	60m ²	調査面積	55.6m ²
調査地	福岡市博多区昭南町2丁目20				
調査期間	平成23（2011）年4月19日～7月13日				

本文目次

I.はじめに.....	1	1. 概要.....	5
1. 調査に至る経緯.....	1	2. 遺構と遺物.....	5
2. 調査の組織.....	1	1) 堅穴住居(SC).....	5
II. 遺跡の立地と環境.....	2	2) 土坑(SK).....	9
III. 調査の記録.....	5	3. 結語.....	10

挿図目次

第1図 雜餉隈遺跡位置図（1/25,000）.....	3
第2図 調査区位置図1（1/1,000）.....	4
第3図 調査区位置図2（1/200）.....	6
第4図 調査区全体図（1/80）.....	6
第5図 SC005実測図（1/60）および出土遺物実測図（1/3）.....	7
第6図 SC010実測図（1/60）および出土遺物実測図1（11は1/4、他は1/3）.....	7
第7図 SC010出土遺物2（12～14は1/3、他は1/4）.....	8
第8図 SC026実測図（1/60）および出土遺物実測図（1/3）.....	8
第9図 SK001実測図（1/60）および出土遺物実測図（25・26は1/4、他は1/3）.....	9
第10図 SK007出土遺物実測図（1/3）.....	10

写真目次

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

平成27（2015）年10月30日、一建設株式会社より、福岡市に博多区昭南町2丁目20における戸建住宅建築に伴う埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である雑削限遺跡に位置しており、申請地の北側では雑削限遺跡第12・19次調査が行われている。埋蔵文化財審査課はこれを受けて平成27年11月10日に確認調査を行った。

確認調査の結果、地表面下5～15cmに鳥柄ローム層が確認され、遺構面が良好に残っていることを確認した。事業主と同課は文化財保護に関する協議を持ったが、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、戸建住宅が建設される60mを対象に発掘調査を行うことで合意した。その後、平成28（2016）年2月29日付で個人事業者を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、平成28（2016）年3月7日～同年3月31日まで発掘調査を、翌平成29年に資料整理および報告書作成を行うこととなった。

2. 調査の組織

調査委託：個人事業者

調査主体：福岡市教育委員会（発掘調査：平成27年度・資料整理：平成29年度）

調査總括：埋蔵文化財調査課（現・埋蔵文化財課）

課長 常松 幹雄

同課調査第1係長 吉武 学

庶務：埋蔵文化財審査課管理係

横田 忍（27年度）

文化財保護課管理調整係

課長 宮崎 誠二

同課係長 藤 克己

同課係員 松原加奈枝

事前審査：埋蔵文化財審査課（現・埋蔵文化財課）

事前審査係長 佐藤 一郎（27年度）

本田浩二郎（29年度）

同課事前審査係主任文化財主事 池田 祐司

同課事前審査係文化財主事 板倉 有大（27年度）

清金 良太（29年度）

調査担当：埋蔵文化財調査課（現・埋蔵文化財課）

文化財主事 清金 良太

その他、発掘調査に至るまでの条件整備、調査中の調整等について事業主様をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事に終了することができました。ここに深く感謝します。

II. 遺跡の立地と環境

玄界灘に面しており、背後には脊振・三郡山系をひかえる福岡市は、これらより派生する山塊、丘陵によって区画される平野が展開している。東側から船屋平野、福岡平野、早良平野、今宿平野と呼ばれており、今回報告する雑餉隈遺跡第21次調査区は福岡平野に位置している。福岡平野は脊振山系からの那珂川と、牛頭山地からの御笠川によって形成された沖積平野であり、雑餉隈遺跡は御笠川とその支流である諸岡川にはさまれた中位段丘上に位置する遺跡である。この段丘は、花崗岩風化疊層を基盤としており、Aso-4と呼ばれる阿蘇カルデラ起源の火砕流による八女粘土層、および鳥栖ローム層とよばれる堆積物からなる洪積台地である。雑餉隈遺跡はこの丘陵地帯の一角に位置している。

この丘陵上に位置する遺跡には旧石器時代、縄文時代から現在に至るまでの人々の生活の痕跡が刻まれており、それは雑餉隈遺跡も例外ではない。雑餉隈遺跡と同じ段丘上には北側では高畠遺跡、板付遺跡があり、南側では麦野A遺跡、麦野B遺跡、麦野C遺跡、南八幡遺跡が位置しており、浸食によって狭い谷の開析により、八つ手状に舌状の台地を派生させている。南側の遺跡はいずれの遺跡も鳥栖ローム層上面で遺構が検出されることが多い。また、南側に位置するこれらの遺跡は飛鳥時代末から平安時代初頭にかけての遺構が特に多い地域となっている。

周辺で最も古い遺物としては先土器時代の石器などが挙げられる。麦野A遺跡第1次調査、麦野B遺跡第4次調査、雑餉隈遺跡第10次調査で検出され新期ローム層中に包含層を検出しているが、いずれも散漫な出土であり、量もわずかであった。南八幡遺跡第12次調査では集中的に分布することが確認されており、台地上の広い範囲にわたって分布することが明らかとなっている。

縄文時代の遺構・遺物としては、各調査において石礫がわずかに出土したほか、麦野A遺跡第18次調査、麦野B遺跡第3次調査、麦野C遺跡第3次調査では石礫が出土しているが、晚期の刻目突帯文期に至るまでの明確な遺構・遺物は少ない状況である。

弥生時代の遺構・遺物としては、麦野A遺跡第18~20次調査において、前期後半~末頃の貯蔵穴、方形の住居跡が検出され、台地尾根付近に集落跡、辺縁部に貯蔵穴が造られていたと推測されている。また、雑餉隈遺跡第5次調査、南八幡遺跡第5次調査では方形の堅穴住居が散見される希薄な広がりをみせるが、南八幡遺跡第9次調査ではガラス小玉を作り住居跡や掘立柱建物が検出され、同第19次調査では連鉢式の銅鏡鑄型が堅穴住居から見つかっている。雑餉隈丘陵では、南縁から西縁にかけて小規模な工房を持つ集落域が形成されていたのではないかと推測されている。

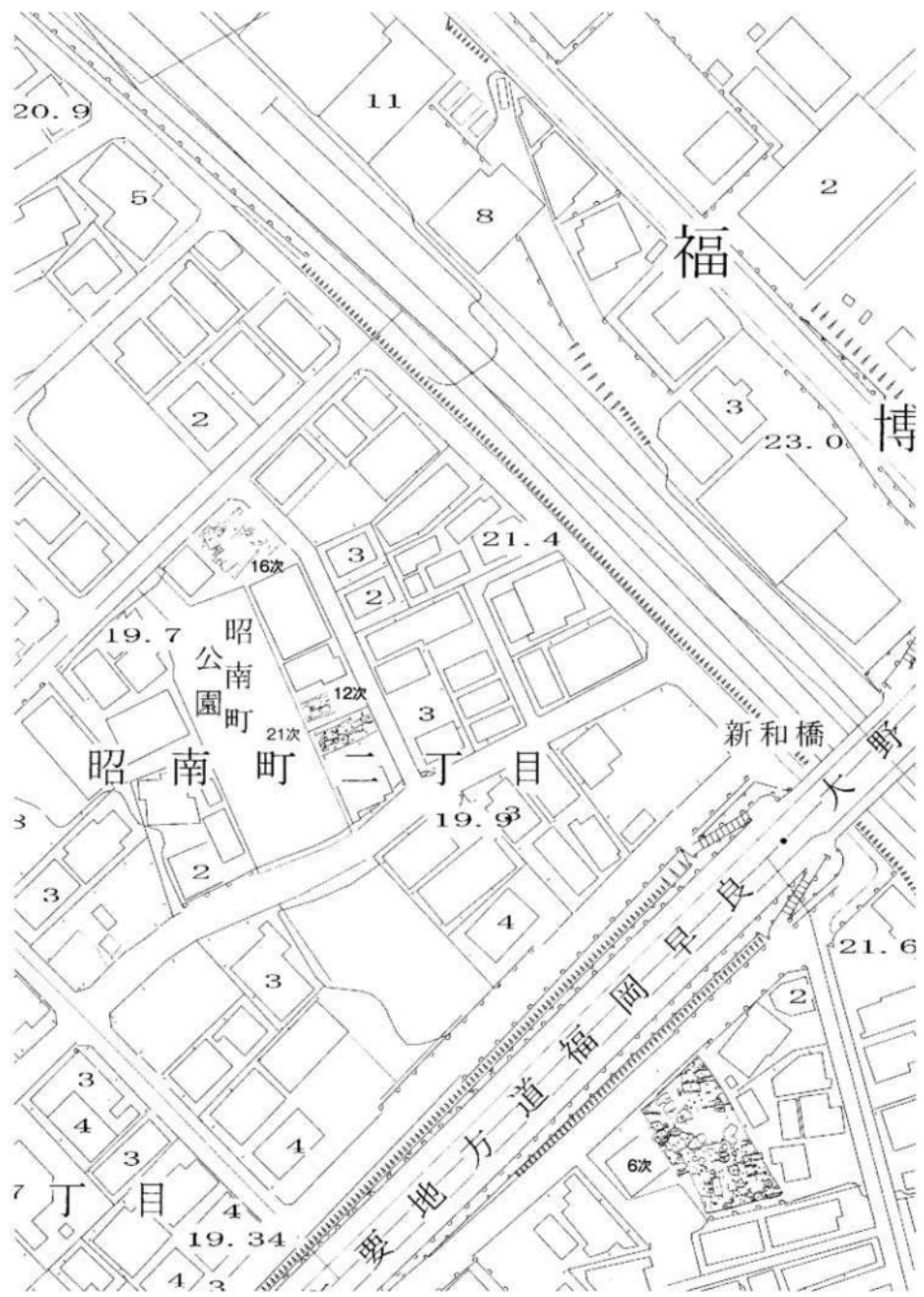
古墳時代に雑餉隈遺跡では、明確な遺構は無く、弥生時代から連続して集落が営まれている形跡はなく、古墳時代前期から中期にかけての遺構はほとんどなくなる。

古代以降になると、遺構・遺物共に増加する傾向をみせ、7世紀後半~9世紀初頭にかけての集落が検出されている。麦野A遺跡第7次調査では、8世紀初頭~9世紀初頭の溝・柵列に伴う門跡が検出されている。麦野C遺跡第5次調査では、堅穴住居45軒以上、掘立柱建物2棟以上と多数の建物跡が検出されている。東に位置する井相田C遺跡の間には、大宰府から北方向へのびる官道が位置している。雑餉隈遺跡第9次調査では、8世紀後半頃のL字形に配置する掘立柱建物が2棟検出されている。周辺には大宰府、水城、大野城、大宰府と鴻臚館をつなぐ官道などの重要な施設が多くあり、これらの維持・管理などにあたる人々の居住スペースなどと推測されている。今回の調査でも同時代の遺構が確認された。



1. 雜餉隈遺跡 2. 比恵遺跡群 3. 山王遺跡 4. 那珂遺跡群 5. 五十川遺跡 6. 井尻A遺跡
 7. 那珂君休遺跡 8. 板付遺跡 9. 高畠遺跡 10. 諸岡A遺跡 11. 諸岡B遺跡 12. 井尻B遺跡
 13. 寺島遺跡 14. 笠抜遺跡 15. 笠原遺跡 16. 三筑遺跡 17. 麦野A遺跡 18. 麦野B遺跡
 19. 麦野C遺跡 20. 南八幡遺跡

第1図 雜餉隈遺跡位置図 (1/25,000)



第2図 調査区位置図1 (1/1,000)

III. 調査の記録

1. 概要

今回報告する雑餉隈遺跡第21次調査区は、博多区昭南町2丁目20に所在し、調査前の現況は標高約20.6mを測る家屋解体後の平地であった。調査地点は雑餉隈遺跡の中央部北西側に位置し、周囲の北西側では雑餉隈遺跡第11次・12次、同様に南側では第1次・4~8次・10次の各調査が実施され、更にその周囲でも数多くの調査が進んでいる。

現況は解体後の宅地であり、標高は20.6mである。本調査区は表土および客土のほぼ直下に鳥柄ローム層に起因する遺構面があり、東側が高く、西側に向かって緩やかに下る。調査区の西側の大半は削平により遺構密度は希薄であるが、中央から東側では遺構密度が濃く良好に遺構が残っていた。遺構面の標高は西端部で19.8m、東端部で19.9mを測る。以上から本調査区の西側は尾根に、東半部は東側の谷部に傾斜する東側緩斜面に相当する。

遺構検出はまず南側を遺構面上面までを重機で剥ぎ取って実施した、以下は人力によって作業を行った。今回の調査では、古代の竪穴住居、土坑、ピット等を主体として確認できた。出土遺物量は、コンテナケースにして5箱である。

発掘調査は平成28（2016）年3月7日に着手した。まず、南側を重機による表土剥ぎ取りから開始し、リース器材を搬入し外柵を設置した。翌日から発掘機材を搬入しその後、壁面清掃、遺構面保護、世界測地系によるトランバース杭の設定、レベル移動を実施し、8日から遺構検出を開始した。順次、南西側から検出遺構の掘り下げや写真撮影、1/20縮尺を主体とする図化、遺物取り上げ、周辺測量等の作業を進め、遺構の掘削作業がほぼ終了した3月15日に全体写真の撮影を行った。その後、反転作業を人力で行い、北西側から検出遺構の掘り下げや写真撮影、1/20縮尺を主体とする図化、遺物取り上げ、残る図化作業や個別遺構写真撮影、全体写真撮影を終えたのち、北東側に設置していた倉庫を撤去し竪穴住居の残りを掘り終えたのちに重機による埋め戻し等を終え、3月31日に第21次調査を完了した。

なお、調査対象面積は、「I.-1. 調査に至る経緯」のとおり、60.0m²であったが、調査区の北西側に竪穴住居があり拡張したため、今回実際に作業を行った面積は71m²であった。調査時の遺構番号は、001から3桁の通し番号を遺構の種別に関わらず付した。それらの番号には、欠番があるものの、重複はない。以下の報告にあたっても、原則的に調査時の遺構番号を用い、例言に記した遺構略号と組み合わせて記述するが、竪穴住居内の施設については、報告の便宜上必要に応じて遺構毎にP1から順に番号を付した。

2. 遺構と遺物

以下、遺構種別に報告を行う。本調査区は世界測地系によって、測量を行い、図化をおこなった。

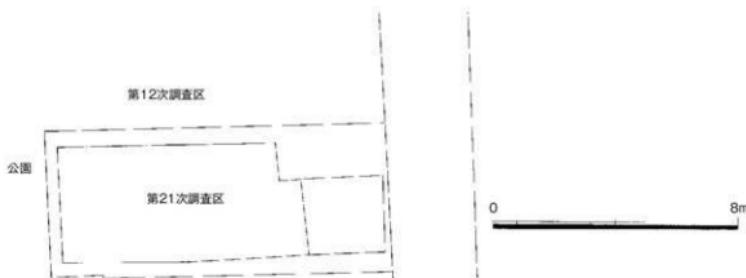
竪穴住居（SC）

今回の雑餉隈第21次調査では3軒の竪穴住居跡が検出された。

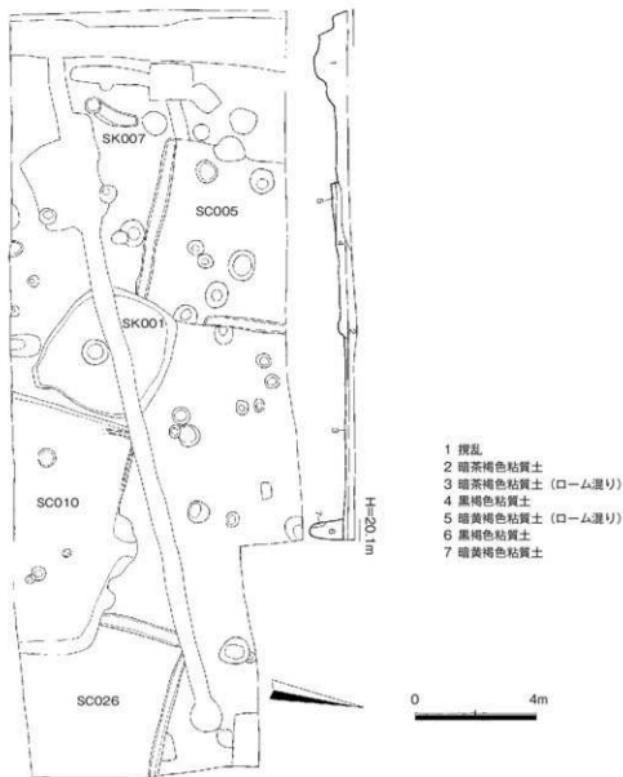
SC005（第5図） 調査区北側に位置する竪穴住居で、南東側をSK001に切られる。また、北側は調査区外に伸びる。一辺約2.8m、壁面の高さ0.1mを測る。南側・東側の壁面には幅約0.2m、深さ0.05mの浅い壁溝がある。ピットが何基か検出されたが、主柱穴とは言い難い。

出土遺物（第5図）1は須恵器の壺で口径13.0cm、底径8.1cm、高さ3.9cm。内面外面共にナデ調整がみられる。2は土師器の壺で口径18.1cm、底径11.1cm、高さは5.6cmと大振りである。内面外面共にナデ調整がみられる。

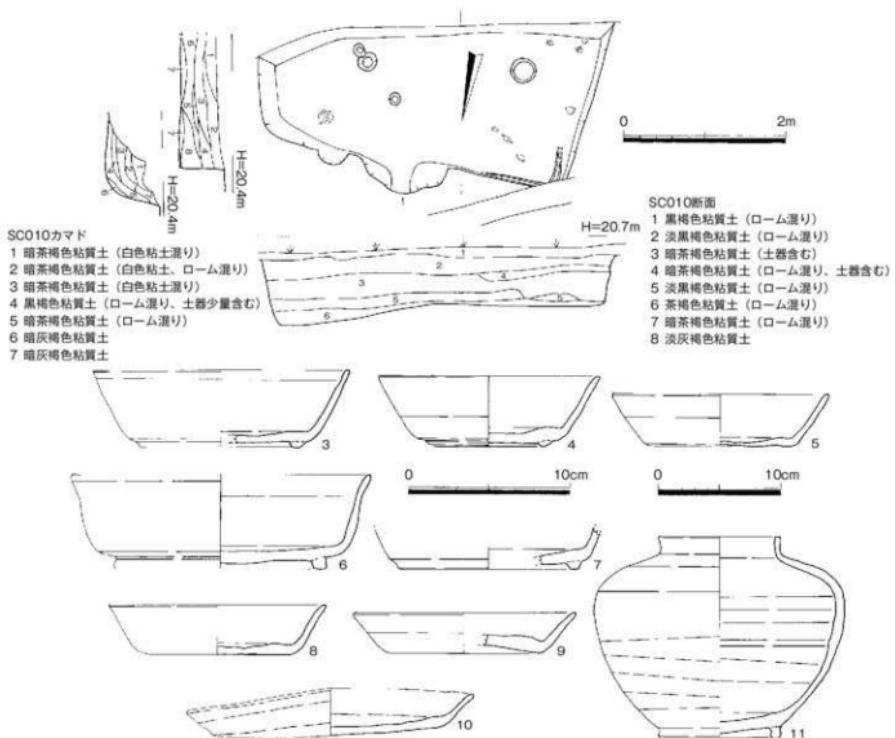
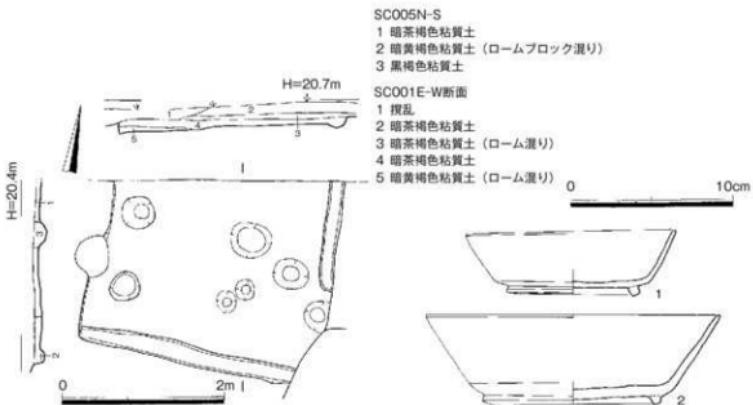
SC010（第6図） 調査区南東側に位置する竪穴住居でSC026を切る。南側は調査区外に伸びる。東西の長さは約4m、壁面の高さは55cmを測る。北側壁の中央に竈を持つ。竈から約20cmの張り出し部を持つ。煙道は削平されており、確認できない。竈は破壊され焼土、粘土が放置された状況である。主柱穴は検出されなかった。

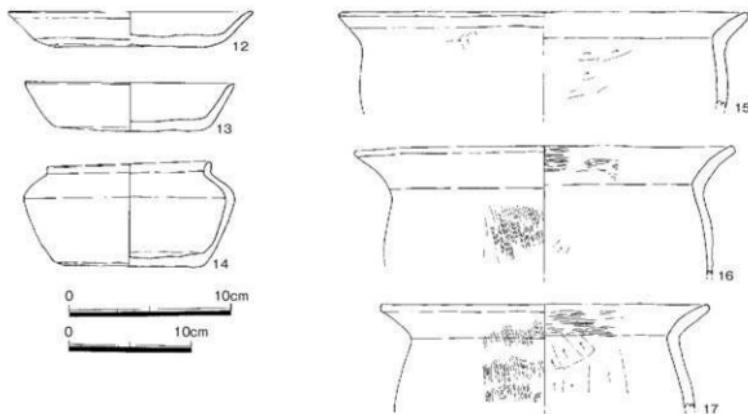


第3図 調査区位置図2 (1/200)

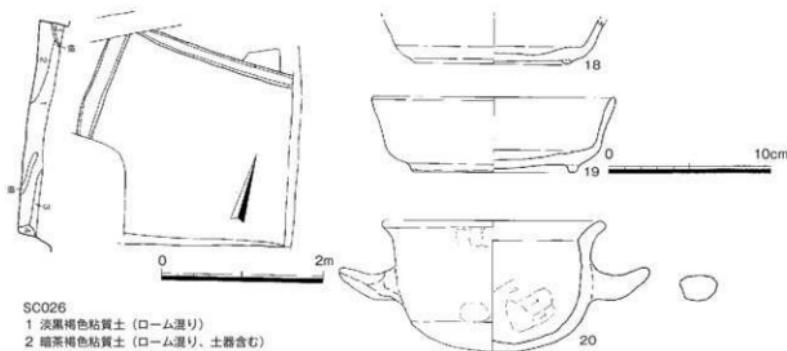


第4図 調査区全体図 (1/80)



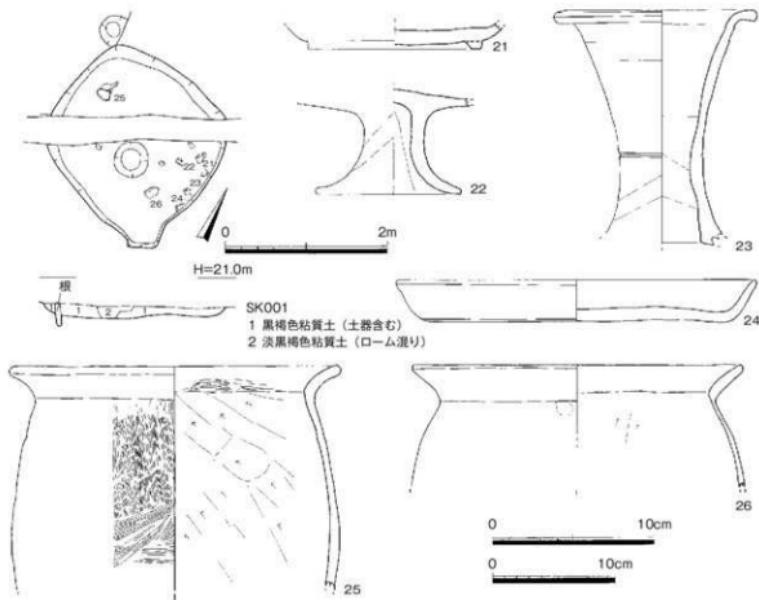


第7図 SC010出土遺物2 (12~14は1/3、他は1/4)



第8図 SC026実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3)

出土遺物（第6、7図）3~11は須恵器である。3~9は壺である。3、4、6、7は高台付きの壺である。3は口径15.8cm、底径10cm、高さ4.7cmである。4は口径13.8cm、底径7.6cm、高さ4.4cmである。5は口径13.4cm、底径9.3cm、高さ3.3cmである。6は口径18.6cm、底径13.1cm、高さ5.8cmあり、大振りの壺である。8は口径13.6cm、底径8.8cm、高さ3.1cmである。9は口径約13.8cm、底径約9.4cm、高さ2.5cmである。10は皿である。口径17.9cm、底径14.4cm、高さ3cmである。焼成に問題があったのか歪みが確認される。11は高台付きの短頸壺である。口縁部は短く屈曲して直立し端部は平坦である。口径約10cm、最大径約20.4cm、底径約9.8cmである。内面、外面共にロクロナデが確認できる。12~17は土師器である。12、13は壺である。12は口径約12.5cm、底径約9.4cm、高さ2.2cmである。高さが低く胴部が斜めに作りつけられている。13は口径13cm、底径9.4cm、高



第9図 SK001実測図（1/60）および出土遺物実測図（25・26は1/4、他は1/3）

さ3.0cmである。14は小壺である。口縁部はやや外反し、肩部はやや張る。口径10.2cm、最大径13.1cm、底径8.1cm、高さ約6.3cmを測る。15～17は壺である。16、17は内面外面にハケ目が確認でき、内面はヘラ削りがみられる。

SC026（図8）調査区南東側に位置する堅穴住居でSC026に切られる。南側、東側は調査区外に伸びる。壁面の高さは約20cmを測る。北壁、西壁には幅8～12cm、深さ0.5cmの壁構が回る。

出土遺物（図8）18は須恵器の壺である。底径9.6cmである。19、20は土師器である。19は高台付きの壊身である。口径14.9cm、底径10.3cm、高さ4.7cmを測る。20は把手付きの壺であり口縁は短く屈曲する。口径約13.6cm、高さ8cmを測る。

土坑（SK）

SK001（図4、9）調査区中央に位置する隅丸方形の土坑である。一部を擾乱によって切られるが、深さ10～15cmと浅かった。浅い皿状に壁は立つ。土器が比較的に多く出土している。

出土遺物（図9）21～24は須恵器である。21は壺である。底径10.7cmである。22は高壺で壺部の重みが大きい。底径8.9cmを測る。23は長頸壺の頸部から口縁部である。頸部は口縁部に向かい広がりをみせ、屈曲して口縁端部に至る。中位に沈線を一条廻らせる。口径は10.7cmである。24は皿である。口径22.3cm、底径18.2cm、高さ2.6cmを測る。

SK007（図4）調査区西側に位置する土坑である。南側をピットによって切られている。深さは30cm程であった。



第10図 SK007出土遺物実測図（1/3）

出土遺物（図10）27は須恵器の蓋坏である。底径18.7cm、高さ3.4cmを測り、上部につまみを持つ。28は須恵器の壺である。第21次調査区の中でこの破片だけが壺を示す。

3. 結語

雑削隈第21次調査区は狭い調査区であったため住居の全景はわからないが、竪穴住居が3軒、土坑2基、その他ピットが多数検出できた。年代はSC005、SC010は8世紀の前半である。SC026はSC010に切られており、SC010より古い。しかし、年代に大きな差は無い。またSK001はSC005、SC010を切っており、これらより新しい。奈良時代前半からSC026→SC005・SC010→SK001となる。

SC010では竪穴住居の北側で壺が検出されている。これは第5・8・10次に検討された北側に壺がつく竪穴住居が多い傾向があるのと一致する。

図版 1



1. 南半部全体写真（東から）



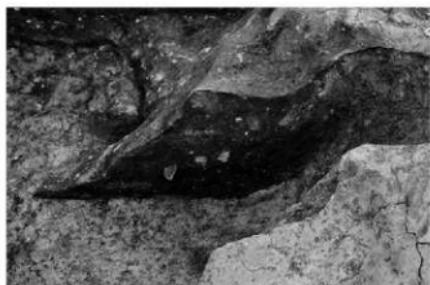
2. 北半全体写真（東から）



3. SC005（東から）



4. SC010（東から）

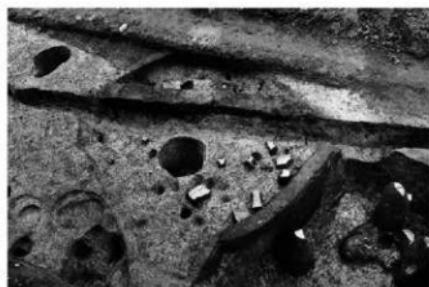


5. SC010竪（東から）



6. SD026（西から）

図版 2



7. SK001 (南から)



報告書抄録

ふりがな	雑餉隈遺跡第21次調査報告 - ざっしょのくまいせきだい21じちょうさほうこく -						
書名	雑餉隈遺跡9						
副書名	—雑餉隈遺跡第21次調査報告—						
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第1333集						
編著者名	清金良太						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神一丁目8番1号 TEL 092-711-4667						
発行年月日	2018年3月26日						
所収遺跡名	所在地	コード					
	市町村	遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
雑餉隈遺跡	福岡県福岡市 博多区 昭南町	40135	02	33° 34' 25"	130° 16' 18" ～ 2016/3/31	55.6	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
雑餉隈遺跡	集落	古代	堅穴住居、土坑	須恵器、土師器	古代の集落を確認		
要約	古代の堅穴住居3棟、土坑1基、ピットが検出された。周辺は古代の集落跡であり、中でも水城とその関連施設を作る際に集められた人々が生活していた集落跡であると考えられている。						

雑餉隈遺跡9

—雑餉隈遺跡第21次調査報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1333集

2018年（平成30年）3月26日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目8番1号

印 刷 魚住印刷
福岡市博多区大博町8-20

